

科目名	母性看護学特論 I Maternal Health Nursing I		科目区分	専 門	単 位 数	2 単位
教 員 名	山本弘江, 小島徳子		必修・選択	選 択	開講年次	第1 学年
					開講学期	前学期
科目概要	リプロダクティブヘルス/ライツやウィメンズヘルスに関する母子と家族への看護について、基盤となる理論や概念への理解を深め、DPに掲げる母性看護学領域の看護現象に根差した原理的・統合的・全人的理解をもって、高度専門職者として今日的課題を追求する					
目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1 リプロダクティブヘルス/ライツやウィメンズヘルスに関する理論や概念について、説明できる。 2 母子や家族に関する健康課題について、研究動向から今日的課題を述べることができる。 3 理論や概念を活用して、課題の理解と考察を深め、課題解決に向けた研究手法を述べるができる。 					
内 容	1	ガイダンス 国内の母子をめぐる話題	講義の進め方 国内の母子に関する研究の概観			山本弘江 小島徳子
	2	母性看護研究動向①	エビデンスに基づいた研究 (EBM, RCT)			山本弘江 小島徳子
	3	母性看護研究動向②	ナラティブアプローチ (質的研究)			山本弘江 小島徳子
	4	母子と家族を理解するための概念①	母性性, 母親役割獲得, 親になること			山本弘江 小島徳子
	5	母子と家族を理解するための概念②	母子相互作用, 母と子のきずな			山本弘江 小島徳子
	6	母子と家族を理解するための概念③	セルフエフィカシー, エンパワメント			山本弘江 小島徳子
	7	母子と家族を理解するための概念④	ヘルスプロモーション, ヘルスリテラシー			山本弘江 小島徳子
	8	母子と家族を理解するための概念⑤	家族の発達, 家族システム			山本弘江 小島徳子
	9	母子と家族を理解するための概念⑥	ケアリング理論			山本弘江 小島徳子
	10	海外の研究動向①	理論を基盤とした量的調査			山本弘江 小島徳子
	11	海外の研究動向②	理論を基盤とした尺度の開発			山本弘江 小島徳子
	12	周産期施設での今日的課題	ハイリスク妊娠, 産科救急, 周産期医療体制			山本弘江 小島徳子
	13	地域行政での今日的課題	健やか親子21 (第2次), 妊娠・出産包括支援事業			山本弘江 小島徳子
	14	リプロダクティブヘルス/ライツに関する今日的課題	ワークライフバランス, 児童虐待, ジェンダー			山本弘江 小島徳子
	15	まとめ	まとめ 研究領域のフレームワーク			山本弘江 小島徳子
学修方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 本特論では、母性看護学分野の概論や特有の内容を学生が主体となって学び、発表する形式をとる。 2 キーワードに示された参考文献や図書を十分に読み込んで準備をして授業に臨むこと (90分以上)。 3 授業は、準備した学修のプレゼンテーションを行い、その内容に関するディスカッションを当該領域の専門家と行うことから、プレゼンテーションのための資料A3用紙 1 枚程度を当日までに準備し、ディスカッションでは積極的に発言、参加すること。 4 授業内容の質問、プレゼンテーションについては、授業内でフィードバックを行うので、必ず復習すること (90分以上) 					
評価方法	課題レポート (50%), 授業でのプレゼンテーション (30%), 授業への参加度 (20%) により評価する。					
教科書・参考書	教科書：特になし 参考書：授業の中で適宜紹介する。					
履修上の注意点	<ol style="list-style-type: none"> 1 3分の2以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。 2 授業内で論文講読を行う。文献は授業の1週間前までにゼミ参加者に配布する。 3 不明な点や相談したいことがある場合は、事前にメールでアポイントをとること。 4 基本的には対面授業となるが、不測の事態で対面授業ができない場合は、遠隔授業に変更する場合がある。その際は、カメラおよび音声を常時onにできるネット環境を準備すること。 					
オフィスアワー	山本弘江：水曜日 16:30～18:00 C棟5階 教授室1 小島徳子：水曜日 16:15～17:45 看護学部棟2階 N256研究室					

